

原発事故後の 現存被ばく状況での保育

現存被ばく状況とは
放射線と付き合わざるを得ない
状況のこと

放射線防護と付き合う保育

放射線のことを勉強せざるを得ない
放射線治療病室やPET検査施設などに
勤務する看護師がその経験者
ただし、状況はかなり異なる

保育現場での様々な問題

国が基準を決めれば問題解決？
専門家が安心できると断言すれば
問題は解決？

放射線安全の考え方を 国は示すべき

低線量被ばくのリスク管理に関する
ワーキンググループ
で考え方は示されている

安全基準の考え方

それを超えないように
その範囲内でできる工夫をする
十分安全なので対策不要

安全であることを保証して欲しい

政府機関の基準を守れば科学的には
リスクは小さいと考えられる

小さくてもリスクが受け入れられるか？

基準を示すだけでは
うまくいかない...

そもそも信頼関係がないと
基準を示しても信じられない

抑圧していないか？

自分たちの思いが大切にされていると
感じられるかどうか？

自分なりの判断が尊重されているか？

リスク・コミュニケーションは？

保育士の負担を減らすアプローチ
専門家巻き込み

現場からの意見例

専門の方が**本当のことをわかりやすく**住民の方にお知らせできる方法
を考えて下さい

車座で専門家が住民の方々の疑問
に何でも答える場

専門家の人間性をさらけ出す場

知ってすぐ 保育にいかせる内容を

よい取り組みの共有
知りたいことに対する情報

戸外へ出て遊びたい
どのくらいの値になったら
外へ出て良いの？

リスクは小さいので気持ちの問題
リスクの感覚を育てる
対策が講じられていることへの信頼

子育て中の親さん達にも、
学習会をもっと回数を多くし、
説明が必要

学習会の実施に向けて
障害になっているのは何ですか？

食品衛生法上の暫定規制値は
ヨーロッパなどの国々よりもかなり
高いそれらのことが不安につながる

パブリックコメントへのご意見に対し
て説明されています

規制値には設定の根拠があります

保育所で決めて良いか どうか勇気が必要

不安なところは
専門家のサポートを受ける
地域で周囲の支援を
受けながら決めていく

給食の心配が強い
測定器を全保育所に設置を
サンプリングでは説明ができない
給食のトータルダイエツト調査は？

食品検査は給食センターで測るの
ではなく、国や県が検査をし確実に
安全な物をのみ県民に提供を

測定の品質管理を伝える

例えば除染にしても学校でとつくに
終わっていても、なかなか保育園の
順番が回ってこない

地域での除染計画づくりの問題は？

データを持て、計れというが
その計る物がなかなか来なかった
りするんですよ

専門家の支援は
受けられないですか？

私たちは放射線のリスクなど様々
聞いてある程度、今日話されたこと
は分かっています。だから日々の生
活を豊かに安心して保育ができる
ために私たちは何をしたらいいのか、
どのように保護者とわかり合い育て
ていけるのか悩んでいます。

子どもの健康を考える親の気持ちは分かります。その不安をどのように取り除けるのか、考えていきたい

対策への信頼がえら得ること

未来の話ができること

もっと本当の専門家の皆さん
が前面に出て説明して下さい

専門家をもっと利用しては

国や県が意図して「大丈夫」といってはいないか、情報開示といっても、どこかで、直されていないか？

自分たちでも専門家の支援を受けて
計測してみてもは

福島県民の気持ちに立った
アドバイスや基準を作ってください
逃げないで助けて下さい

専門家は支援したいという気持ちを持
っている

支援を求める側と支援する側で
何がずれているのか？

0. 5% (100ミリシーベルト) の リスク追加は小さくない？

寿命短縮で考える？

リスク認知は主観的

不信の背景にあるものは？

行政だけで行うには限界がある

どのように支援を求めるか？

親御さんの中には、「避難したかったができない」「避難できた人やうらやましい」などの声も。

自主避難することの支援が必要？

必要な場合にどう支援すべき？

科学的な知見は？

低線量被ばくのリスク管理に関する
ワーキンググループ報告書

あなた自身が納得できていますか？

危ないの？危なくないの？

保育可能エリアは放射線リスクを制御
(園庭で $1\mu\text{Sv/h}$ が避難区域解除条件)

安全とは？

リスクが小さいこと

リスクが小さくても
工夫する余地はある
すごく小さいリスクは無視できる

芋掘りに子供を
参加させたくない保護者

保育園の活動方針に不信を持つ

行政の方針にあなたは
納得していますか？

同じような課題

外遊びの時間の制限
自然とのふれあいの制限

問題の分析

- 放射線リスクを心配？
 - 土いじりが心配？
 - 収穫したイモを食べることが心配？
- 保育園の姿勢に不信？
 - 対策が徹底されていないと思われる
- 放射線リスクを心配するあまり子供の健全な発達が阻害されている？

行事を行うべきかどうか？

保育園と保護者で決めるしかないが
ジレンマそのものがストレス

ジレンマを軽減する

行事をするとしても
行事をしないとしても
その他の解決策をとるにしても

納得できる判断のための具体策は？

- リスクの程度を理解
 - 行事で増える線量は？
 - 科学的に明らかにする
- リスク低減の工夫の余地は？
 - アイデアを集める
 - よいアイデアの実現に向けての道を探る
 - 保育園や周辺環境の除染をより進めるべき？
 - 除染推進の妨げになっているのは？

何かアイデアはありますか？

専門家を活用するには？

専門家は信じられない？

意見がばらばら

ひとりの専門家だけの
意見を参考にしない

むしろ正しいデータを出してもらう

専門分野は幅広い

自然科学から社会科学

保育園で困っていることは？

ニーズは表出されていますか？

落ち葉が心配？

新しい葉の汚染は小さいと
説明されるが本当...

専門家側はサンプリング装置を
用意して待っている

データが欲しいという観点では、
現場と専門家の利害は一致
専門家は貢献したがつている

将来予測

何が問題となりそうですか？
どのような未来を望みますか？

活動例の紹介

模索されている
福島県内での子育て支援

専門職でない現場の職員が保護者を納得させるのは難しいです。

放射線リスクを納得させることが
保育士の役割？

保育士の特徴

どのような役割が発揮できますか？

未来に向けて目指す方向は？

- 被災地のことをリアルに感じられるサポーターを増やす
 - － 体を動かす・考えるなどの支援を得る
 - － 被災地への誤解を解く
 - － 被災地支援活動のイメージの向上
- 行政機関の施策を効果的に展開するには？
 - － ゼネコンによる除染をより効果的にするには？

被災住民の避難先の保育士？

自主的に避難した

家族の子供は健康？

避難された方のニーズは？

国で整備すべき ガイドラインは？

低線量被ばくのリスク管理に関する
ワーキンググループ報告書
を補うために何が必要か？

保健師との連携は？